



岡山大学法学部だより



※ 本メールは登録された方へのみお送りしています

第 77 号(2013 年 9 月 20 日発行)

発行：岡山大学法学部 学部長室

秋らしい空になりました。

目次

- 在学生の活躍から（模擬裁判に参加して）
- 最近の話題・法学部からのお知らせ

- 在学生の活躍から（模擬裁判に参加して）

模擬裁判とは、架空の紛争事例について参加校が原告と被告に分かれ、書面の作成及び裁判官の前での弁論を行い、その主張の説得力を競うものです。日本でも国際法分野において早くから取り入れられ、岡大法学部では今年度法友会の有志によるチームが夏の大会に出場し、4月から6月まで書面の作成に取り組み、7月13日から14日にかけて東京のオリンピックセンターで開催された全国大会で弁論をしてきました。模擬裁判のメンバーは、授業外でも法律に実践的に触れることができる、グローバルな視点を身に着けたい、法曹を目指しているから等各自様々な目的で参加しています。今回は1年生も国際法の知識が全くない状態から頑張っ

て弁論台に立ちました。大会本番やそれまでの準備では様々な苦労がありましたが、大会の活動を通して得られたものは大きく3点あります。

まず1つ目は、資料の収集力です。日本語の書籍のみならず、英文を読むことも多々あり、自分の必要とする資料を様々なものを通じて収集できるようになりました。また、多くの情報に触れることが出来ることができ、現在の尖閣諸島を巡る日中間の様子も同時に学ぶことが出来ました

2つ目は実際に法律を使い、弁論として自分たちが考えた論を専門家の先生に聞いてもらえる経験ができたことです。自分が理解したつもりになっていても理解してもらうことは難しく、伝わらなければ主張が通らないという当たり前の事実

に苦勞しました。模擬裁判での裁判官は、他大学の先生方、実務家の方々が務めてくださいます。そういった人を相手に弁論をするということは、緊張もしますし、生半可な知識では太刀打ちできません。けれども、そういう専門家が相手だからこそ、納得してもらったときの喜びというものがあるのだと思います。法曹を目指す人はサークルなどに費やす時間はない、と考えているかもしれませんが、そういう人にこそ模擬裁判を通じて実際に法律を使ってみるということを体験してほしいと思います。

最後に、大会・活動を通じて様々な人たちと交流ができたことは、今後の大学生活におけるよい刺激になりました。他大学のすごさを肌で感じ、白熱した裁判を見られるということは何にも代えがたい経験です。

一緒に活動した先輩方や友達、メモリアルを見てくださった先生方や3回生以上の先輩方などの模擬裁判に関わった全ての方々、本当にありがとうございました。

法学部（荒瀬昌彦、榮田智裕、水落光紀、三宅香菜子、棟居輝雄、豊田詩乃、西尾美咲、山中麻椰）

○ 最近の話題・法学部からのお知らせ

☆岡山大学法学部 第6回ホームカミングデイが開催されます。卒業生・在学生はもちろん一般の方の参加も歓迎です。どうぞお越してください。

2013年10月19日(土)

講演会

時間：14:30～16:00

場所：岡山大学文法経学部講義棟20番教室

講師：吉岡桂子（朝日新聞 東京本社編集委員）

演題：「対話力 中国と向き合う」（仮題）

懇親会

時間：16:30～18:30

場所：岡山大学生協ピーチユニオン2階

会費：2000円（在学生は無料）

-
- ・本メルマガは、毎月2回程度配信しています。
 - ・法学部の詳細情報に関しては、HPも併せてご覧ください。
法学部HP <http://www.law.okayama-u.ac.jp/>
 - ・本メルマガには返信なさらないようにお願いします。
 - ・本メルマガの登録・解除は、以下のURLにてお願いします。
<http://www.law.okayama-u.ac.jp/local/mail/>
 - ・ご意見・ご感想は、法学部 情報委員会 joho-mailmaga@law.okayama-u.ac.jp まで。